

上越市創造行政研究所（上創研）は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。当市のまちづくりを支援する調査研究機関として、人口データなどの分析や情報提供、フォーラムやワークショップの開催、調査研究による政策提言などを行っています。

Topic 01

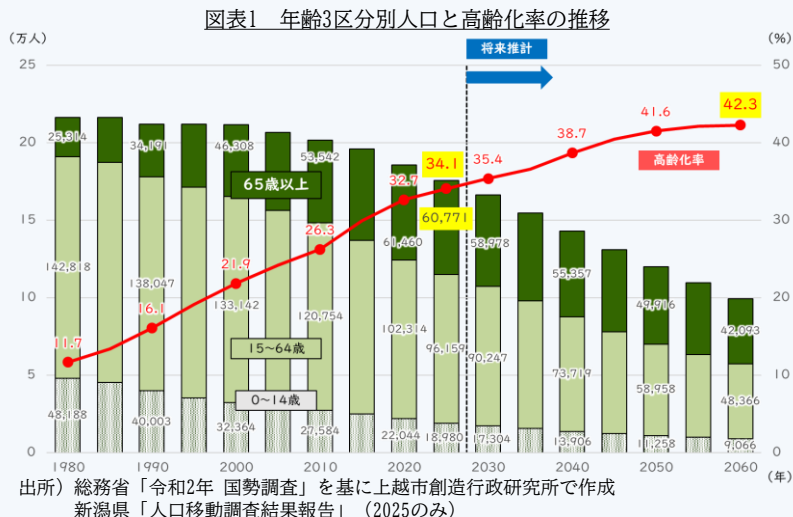
上越市の高齢者の今を知る — 敬老の日になんで —

敬老の日は、高齢者を敬い長寿を祝う日です。日本の65歳以上人口（以下、高齢者人口）は3624万人となり、総人口に占める割合は29.6%と過去最高を記録（今年9月15日現在推計）。また、100歳以上の人口は10万7677人となり、初めて10万人を突破しました（今年9月1日時点）。日本全体で高齢化が進む今、上越市の高齢者の現状を統計データを基にまとめてみました。

市民の3人に1人以上が高齢者

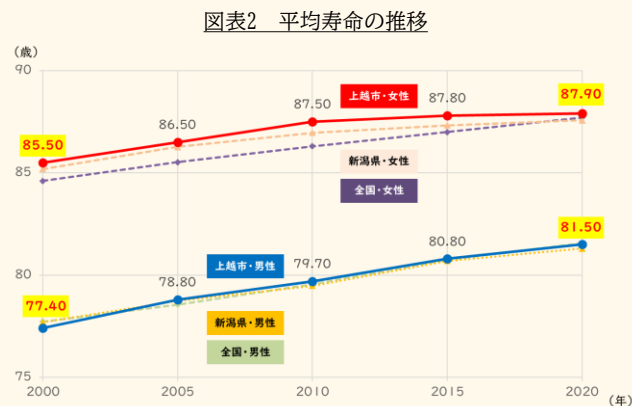
上越市の高齢者人口は60,771人、高齢化率は34.1%で、市民の3人に1人以上が高齢者です（昨年10月1日時点）。今後は総人口・高齢者人口のどちらも減少する見込みですが、子どもや生産年齢人口の減少がより速いペースで進むため、高齢化率は上昇を続け、2060年には42.3%に達します。

人口構造は「高齢者が増える社会」から「現役世代が減る社会」へと変化していきます。



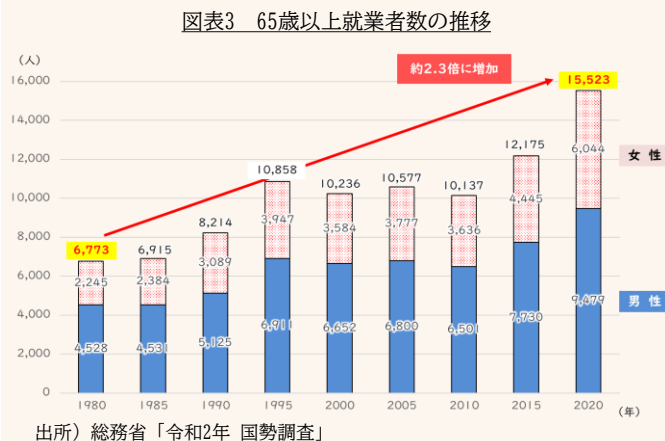
長寿命化が進んでいる

高齢化の要因の1つが長寿命化です。上越市における平均寿命は20年間で女性で2.4歳、男性で4.1歳延びています。寿命の延伸により、高齢期がこれまで以上に長くなり、人生100年時代と呼ばれる社会が現実味を帯びています。



働く高齢者が増えている

近年は、65歳を過ぎても仕事を続ける人が増えています。2020年の上越市の65歳以上就業者は15,523人と過去最多を記録。総数は1980年から約2.3倍に増加し、男女ともに過去最多を更新しました。



高齢化は単に高齢者が増えることではなく、人口構造そのものが変化していることを意味します。統計データから地域の現状を正しく捉え、これからの上越市の姿を考えるきっかけとしていただければ幸いです。

Topic 02

【谷浜・桑取区】地区まち住民ワークショップ発表会

谷浜・桑取区では、地域の将来像を住民自ら考える「地区まち住民ワークショップ」を4月から開催してきました。このたび、その成果を発表する「谷浜・桑取地区の課題、可能性、将来像をみんなで考えた成果発表会」を9月12日（土）に開催し、約半年間の話し合いの成果を地域住民や関係者に共有しました。地域内の幅広い年代から選ばれた4チームが、それぞれの視点から地域の課題や魅力、今後の取組を提案しました。

■4チームの発表内容

①人が集まり、つながり、住みたくなる地域へ(ヤング男性チーム)

山・川・海に囲まれた豊かな自然や既存施設を生かし、「知る・来る・体験する・泊まる・関わる」という段階的な仕組みづくりを提案。イベント開催や体験メニュー開発、空き家活用などを通じ、地域のファンや関係人口を増やしていく構想を発表しました。

②すべての女性・お母さんが幸せに過ごせる地域

(女性チーム「Chill-灯り-」)

子育て世代や女性が地域とつながり、ゆったり、豊かに過ごせる未来を目指し、SNSによる情報発信や交流イベントの開催を提案。地域住民ひとりひとりが「いいね」で参加、地域への愛着と暮らしやすさを高める取組を発表しました。

③情報発信でつながる地域づくり(ベテラン男性チーム)

豊かな地域資源が十分に知られていない現状を踏まえ、地域イベントカレンダーの作成やSNS、ホームページなどを活用した情報発信の仕組みづくりを提案。住民や事業者が連携しながら、地域の魅力を継続的に発信する体制づくりを目指す取組を発表しました。

④地域の資源を活かし、昼間の人口をみんなで増やす

(移住・関係人口チーム)

地域資源を維持・活用する担い手不足を課題に挙げ、NP0や地域団体を中心としたネットワークづくりを提案。地域資源を仕事や活動につなげることで、新たな関係人口や移住者を呼び込み、子どもたちが帰ってきたくなる地域づくりを目指す構想を発表しました。



■地域の未来に向けた第一歩

発表会では、4チームそれぞれが異なるテーマから提案を行いました。共通していたのは「地域の魅力を生かし、人と人とのつながりを広げながら、住み続けたい・関わり続けたい地域をつくる」という思い。今後は、地域協議会や関係団体と連携し、発表内容の具体化が期待されます。

Topic 03

【牧区】第2回地区別検討会を開催しました！

牧区では、人口減少や担い手不足が進む中、住民主体による「持続可能な牧づくり」の検討を進めています。

8月20日（木）に開催した第2回地区別検討会には32人が参加し、「体験・移住」「農業」「外出支援」をテーマに班ごとに話し合いが行われました。

参加者からは、移住者を受け入れる環境づくりや農業の担い手確保、買い物や通院を支える移動手段の確保などに関する意見が出されました。一方で、「豊かな自然や農産物、人のつながりといった地域の強みを生かしたい」という声も。

今後は、ワークショップや関係団体ヒアリングでいただいた意見を踏まえ、牧区の将来像や地域づくりの方向性をまとめていきます。

